

第 1 回ワークショップ（6 月 30 日 小地域福祉ネットワーク活動）のまとめ

論点	課題項目	ワークショップで挙げられた課題	ワークショップで挙げられた対応策
担い手に関する課題	参加を広げる	<ul style="list-style-type: none"> ・協力者の発掘 ・持続・協力しやすい条件の把握 ・役割を固定化しない多様な参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・商店・コンビニ経営者、新聞販売店等に部分的な協力を依頼する。 ・持続可能な協力パターンの把握（協力できることの具体化） ・現状：ボランティアと援助を受ける側がボーダーレスになっている。（支える人が時に支えられる人に。）
	担い手を支援する	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉委員の資質向上 ・活動者に対する金銭的な支援 ・福祉委員の身分保障に不安（民生委員は公務災害となる。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員、町内会役員による側面からの協力、応援。 ・活動している人への協力と応援が大切。応援はやる気につながる。 ・研修会の開催 ・財源確保と活動への金銭的な支援を検討する。 ・手当の支給（財源確保）による一定程度の身分保障。
	担い手の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・人材不足で新しい活動に進展しない。 ・町内会長を福祉委員としているため、人材が不足している。 ・老々支援。支援のなり手がいない。 ・社協と関係団体との連携 ・町内会長により活動に温度差が生まれる。 ・福祉委員を育成をしたいが、町内会に差がある。 ・福祉委員の町内会での位置づけが地区ごとに異なる。 ・福祉委員が選出されていない地域がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域ガイダンス」の開催 案内チラシを全戸配布した。 ・「地域高齢化との取り組み」のテーマで講演とワークショップを実施した。 ・福祉委員の改選時期を改正する。福祉委員の任期をずらす。半数ごとに入れ替えをする。 ・福祉委員の活動の重要性がわかってくると、現場（ブロック会議）から、もっと福祉員が必要だという声が出てきた。 ・元気な高齢者は支援者になる。 ・地域で 65 歳以上の方に地域ガイダンスとワークショップを開催し、伝える、一緒に考える場を設定。 ・民生委員・町内会長が地区社協の役員になってもらう。 ・区域内を 7 つのブロックに分割し、ブロック長が中心になって、活動の差をカバーする。
	活動継続するための人材	<ul style="list-style-type: none"> ・役員や福祉委員の固定化 ・福祉委員の継続に難点 ・福祉委員の高齢化に伴う、活動継続の不安定さ ・福祉委員に男性の参加が必要だが、確保が難しい。 ・うまく世代交代出来ない地域がある。（1 年で変わったり、10 年続いていた） ・ベテランのノウハウを引き継ぐことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の役員交代の際に、世代交代についても会議で話し合う。 ・福祉委員の任期をずらす。半数ごとに入れ替えをする。 ・福祉委員の任期を町内会の推薦がある限り有効とした。事務負担軽減の意味もあり。
リーダーに関する課題	リーダーとコーディネーターの力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・役員の固定化 ・つなぎ役を担う人材の重要度が増大 ・興味のある人を活動につなぐ仕組み ・団体間の連携を深める場・機会づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代交代を町内会の役員と合わせて行う。 ・現状：包括など（専門職）は地域に入ってきている。ボランティアは増えてきている。福祉委員の定着が見られる。⇒ただし、つなぎ方には工夫が必要。（地区社協や推進員の役割） ・団体同士で互いの活動の PR 合戦をすることで、顔つなぎができる。（社協がつなぎ役として機能する。）

論点	課題項目	ワークショップで挙げられた課題	ワークショップで挙げられた対応策
場づくり・ネットワークづくりの課題	課題解決力向上のため情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・社協、民生委員、福祉委員、地域包括支援センターの連携 ・福祉委員に民生委員が含まれていないので、協働に不安がある。 ・問題を発見した場合、どうやって解決したらよいか方法がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域圏域ケア会議の開催 ・町内会長、保健師、施設関係者、ケアマネージャーなどと横の連絡を密にし、情報交換を行う。 ・福祉委員と民生委員が町内会単位で話し合いを行う。 ・情報共有と課題解決の場としていく。 ・個別ケースについて、話し合った内容を報告してもらい、地区内の事例を取りまとめ、フィードバックする。返答が必要なものは回答を出す。地域内で共有する。
	活動の推進力維持のための場	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会長が毎年交代するため、活動に対する意識が低下しやすい。活動の不連続性 ・福祉委員を選出していない町内会がある。 ・大きな町内会と小さな町内会の温度差 ・町内会の主体的な活動の活性化 ・町内会長兼務の福祉委員が多く、多忙との理由で活動が停滞しがち。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区社協・市社協の職員にも加わってもらい、これからの方針や問題点などについて、話し合う機会をもつ。 ・町内会ごとに福祉委員、民生委員、町内会長などが一堂に会して、種々の課題について話し合い、事例を述べ合う。共有する。 ・町内会長等への小地域福祉ネットワーク活動の理解促進 ・民生委員・町内会・福祉委員との懇談会を開催する。 ・地域で65歳以上の方に地域ガイダンスとワークショップを開催し、伝える・一緒に考える場を設定。
連携強化に関する課題	連携を深める仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉委員に民生委員が含まれていないので、協働に不安がある。 ・地域福祉がタテ割 ・地域内の団体（町内会等）の財源負担の在り方 ・地域の一体感醸成 ・地域団体協働の体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉委員、町内会長、民生委員と懇談会や研修会を開催 ・社協・民協・連町・日赤など、地域内の関係団体で合同で研修会を開催する。 ・話し合いをすることで、いろいろな情報が得られる。 ・ケア会議に町内会長にも入ってもらい、縦割りを緩和する。 ・町内会イベント経費等の出資協力（共催）で連携強化 ・地域内の団体で共通のスローガンを掲げ、協働でお祭りを開催 ・地域内の施設、団体、相談機関、行政等様々な方の参加を得て、まちづくり協議会として組織化。人材、福祉的な課題も含め、まちづくりの視点から、地域全体で取り組む土台になった。
	割担	<ul style="list-style-type: none"> ・個別事例への対応 ・地域で対応困難な事例の対応の流れの明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会ごとに、町内会長、民生委員、福祉委員が集まって、困難事例について協議する。 ・町内で対応困難な場合は、地区社協、専門機関へという形で、事例を受け止め、つなげる流れを作って対応。 ・CSWを交えて、理事会、福祉委員会を数多く開催し、理事及び委員の意識づけを図る。 ・サロンの会議に包括支援センターにも入ってもらう。
要援護者に関する課題	孤立しやすい高齢者へのアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・孤立している高齢者をサロン等に出してもらうことが難しい。（特に男性） ・問題を発見した場合、どうやって解決したらよいか方法がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・足しげく通ったりすることで、信頼関係を築く。 ・気軽に参加できる催し物を開催する。（お花見・芋煮会） ・特技を活かせる仕事を頼む。講師なども含めて。 ・地域団体間のネットワークにより、サロン参加者に広がり生まれる。 ・先進事例を得て、必要を思われるものは、地域で共有。

第2回ワークショップ（7月17日 大学職員グループ）のまとめ

論点	対応策項目	地域の活動に学生が参加できそうなこと	地域の活動に参加するために必要なこと
担い手に関する課題	学業を通じた関わり	<ul style="list-style-type: none"> 授業やゼミを通じた関わり 授業における地域の学びの場としての活用 研究・調査と関連させる。 地域活動を単位化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会との連携・協力関係 飲み会・交流会
	地域活動のサポート・ボランティアとしての参加	<ul style="list-style-type: none"> 地域の子供との関わり（児童館等と一緒に遊ぶ） 学生の地域イベントへの参加・サポート マンパワーが必要な時に提供する。 敬老会などでの足湯ボランティア 町内会へ防災活動で協力 サロン活動の手伝い 学生による見回り隊、買い物支援、雪かきボランティア（一人暮らし高齢者等） 介護予防等の健康づくりの事業実施 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動に関する活動費の支援。 学生の参加を促す方法の工夫。（情報提供、単位化など） 仲の良い人ができないと続かない→学生にとって魅力的な地域の人の存在 学生との交流が好きな地域の人が必要。
	学生を募集・つなげる	<ul style="list-style-type: none"> 活動した学生への見返り・ご褒美 参加学生を多少強引に促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア（無償）とは異なる位置づけや対応。 昼食や交通費（移動手段）宿泊費の支給
リーダー・コーディネーターに関する課題	地域の見える化	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者など低栄養になりやすい人達へ栄養指導をする。 地域の知恵・技能を持つ、達人マップ作り 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の情報を持つ人を掘り起こす。 誰とみえる化できるかの把握（誰が情報をキャッチしているかをつかむ）
	情報	<ul style="list-style-type: none"> 地域ニーズの把握 学生を守る。（確かな情報と管理） 学生に情報を流す。 	ニーズの調整・把握等、つなぎ役の確かな情報把握
場づくり・ネットワークづくりの課題	つながりの基盤	<ul style="list-style-type: none"> あいさつする 	<ul style="list-style-type: none"> 最初は場の設定が必要
	学生と地域をつなぐ仕組み	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方と学生と一緒にボランティア ボランティアフィールドワークの開催（学生と現場をつなぐ） 町内会と学生、教職員と一緒にワークショップを開催し、課題分析する。 地域支援の年間行事カレンダーを作成し、学生参画型の実践 地域課題のスタディツアーの受け入れ、大学近所の震災語り部など 地域の先輩方が先生になってもらうような研修の開催（教える喜びづくり） 学生によるパソコン・スマホの使い方講座 カフェの開催（コミュニティづくり）、留学生・近所の子供でハロウィンパーティの開催 	<ul style="list-style-type: none"> 大学・地域が「何か得られるよ（学べるよ）」という付加価値を学生に提示する。 地域の受け入れ態勢（窓口）。 地域とやり取りし具体的な要望を確認した上で支援等を組み立てる。 地域の中で語ってくれる人を見つける。 役割分担（パソコンはどこが用意するか、活動場所は地域か大学か） SNS（ソーシャルネットワークサービス）等を活用する。 関連機関との連携。
連携強化に関する課題	小中高大の連携で支える	<ul style="list-style-type: none"> 小中高大で協働で取り組めるメニューづくりを行う。（地域で必要とされることについて） 	<ul style="list-style-type: none"> 時間がそろわないといけない。（スペース・時間・お金等）
	大学全体の方針	<ul style="list-style-type: none"> 地域支援できる仕組みの確立と学内での位置づけ 学生たちが地域に出やすい取り組み 地域福祉活動における大学間での統一 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の経験が有益だったことを卒業生から伝える機会づくり 社会の活動も人生の一部と考えられるように育てる。 授業を欠席にしない。 学生の教育（人間力教育）の機会として、必要なものと位置付ける。 文科省との矛盾を解消する。
	大学が来る・出ていくこと	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時だけでなく、日常不断のコトのデザイン 老後の文化活動の拠点になる 子供が安心して遊べるスペースを提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学施設の使い方を広報する。 教職員トップの考え方を変える。大学のガードを下げる。 地域住民や仙台市から要望する。
	他機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域・行政との連携・評価 	<ul style="list-style-type: none"> 過去の学生の活動が地域に評価される。 学生の活動を地域や行政が認める。 地域が学生の活動に謝金を出す。

第2回ワークショップ（7月17日 学生グループ）のまとめ

論点	対応策項目	地域の活動に学生が参加できそうなこと	地域の活動に参加するために必要なこと
担い手に関する課題	近所とのつきあいを深める	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつする。 ・回覧板は直接家の人に渡す。 ・身内のご近所づきあいにお邪魔する。 ・地域で心配な人がいることに気づく。 ・心配ごとに自分から話しかける ・高齢者や支援を要する人のリストの作成 ・ゴミだし・雪かき・見回り・要支援者の買い物や掃除。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族ぐるみの付き合い ・気づくための土台として、あいさつをする。 ・聞く勇氣 ・面倒くさがらず、めげない。 ・異変に気づいたらそのままにしない。 ・人付き合いに関するイメージの向上 ・人付き合いがセキュリティも高めるという意識づくり。
	町内活動との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会活動へボランティアとして参加 ・子供たちと一緒に地域の清掃活動に参加（世代間交流） ・市が主催するものなどで、福祉活動に参加。 ・若者の町内会を開く。⇒町内会と協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会長・自治会長と仲良くなる。 ・集まりやすい環境づくり（イベントなど） ・町内会活動の敷居を下げる、活動を多様化する。 ・町ごとのボランティア講習会 ・学生を受け入れる態勢・仕組み ・コミュニケーションのきっかけとなる機会やメリット。 ・学生同士の地域コミュニティの形成をして、既存のコミュニティとつながる。 ・町内会学生部を作って、帰属意識を醸成
	地域を知るきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の授業で地域の問題について知る。 ・地域の防災活動や行事に参加する。 ・地元の食材を使った料理作り等、交流会の開催 ・ゼミなどを利用して、地域調査・町おこしを一緒にやる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の講義で取り上げる。 ・大学側のボランティア活動に対する支援や協力 ・体験実習として、実施する。
	見える化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の得意な分野・技能などを登録してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロフィール帳の活用
リーダー・コーディネーターに関する課題	コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズの明確化 ・学生が行っている活動内容の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・してほしいこと等、求めていることが明確であること。（学生は何をしてほしいのか知ることができる活動に参加しやすい。） ・大学を通じて学生やサークルに依頼する。 ・ボランティアやお手伝いを紹介したりニーズをキャッチするシステム ・需要のある高齢者を把握する。知る・理解を深める。 ・学生の活動内容を前もって知ってもらうこと。 ・市がボランティアをしたい学生団体を支援する。
場づくり・ネットワークづくりの課題	大学生のボランティア促進	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と関わる機会を持つ ・公的な制度やサービスにはない小さな手伝い ・大学のボランティアサークル同士の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・ともに活動する仲間がいる。ゼミ・サークル・友人など ・学生と市民が気軽に接することができる場を作る。 ・大学がボランティアするための時間を作る ・大学が仙台の魅力伝えるイベント、ワークショップを開催し地元愛を育て、関心を高める。 ・市が福祉について情報交換をする場を作る。 ・大学ができることと地域がしてほしいことを話し合う場を作る。
	学生と地域をつなぐ仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事等への参加 ・大学と地域が連携したイベントの開催 ・イベントなどの実行委員会等への参加。 ・夏祭り、廃品回収など得意分野への参加 ・高齢者を対象とした健康指導 ・高齢者が若者の得意な分野の趣味を学ぶワークショップの開催。パソコン・スマホなど高齢者向けの研修 ・各世代・年齢の橋渡し役・仲介役を担う ・若者視点を取り入れた町おこしの実施 ・楽しいと思える活動と併せて実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した人（経験者）の話を聞くことができる場所や機会づくり ・先輩・後輩のつながり ・高齢者・要援護者からの依頼を受ける。 ・大学の活動に対するバックアップ ・学生の受け入れ態勢（地域や小学校、施設などにおける学生を受け入れる姿勢） ・互いに利害関係が成り立っていること。 ・自分たちの自己満足ではなく、他人のことを考える意識。
	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS を利用したボランティアの情報発信。 ・活動後に報告を行い、活動の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・他学生との情報共有の場 ・安全なコミュニティサイトでの情報交換の場 ・情報伝達のツール（紙以外）の活用
連携強化	大学の資源活用	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちへの居場所支援・学習支援 ・学祭を通じた地域との関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学施設を使ったイベント開催 ・学祭の工夫・活用 ・大学のバスを活用。 ・大学間の連携。